

Frente

フレンテ

フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.48
2011.12

Report

男女共同参画フォーラム

～みえの男女^{ひと}2011～

迷いながらも
わたしが決める
わたしの働き方・生き方

夢みるゆめ子ちゃんと
壁ぶちあたり子ちゃんの行方

Report

女性に対する暴力防止セミナー

ストップDV！

“がまんしなくていい！

あなたは悪くない” ●

～当事者が望む支援とは～

母子家庭等の女性のための
就職準備セミナー

シングルパパ
応援カフェ！

イ
ツ
ツ
マ
イ
ラ
イ
フ
!

スペシャル
インタビュー

イケムラレイコさん

「うつりゆくもの」

絵画、彫刻、ドローイング、約150点による日本で初の回顧展
三重県立美術館 2011.11.8—2012.1.22



男女共同
参画フォーラム
～みえの男女2011～
11月12日(土)

Report



迷いながらもわたしが決める わたしの働き方・生き方

対
談

堂本 暁子さん × 湯浅 誠さん

(ジャーナリスト、
元千葉県知事、元参議院議員)

(内閣府参与、
反貧困ネットワーク事務局長)

コーディネーター

石阪 督規さん (三重大学
人文学部准教授)



11月12日(土)、フレンテみえ年間事業の集大成として「男女共同参画フォーラム～みえの男女2011～」を開催しました。ホールイベントの対談では、これからの働き方・生き方について、様々な視点からお話いただきました。一部をご紹介します。

【堂本】 就職当時、女性の就職が難しく、最初の仕事は母校の食堂。それからアメリカ大使館でのアルバイト等を経て放送局のディレクターとなりました。その当時、日本の女性が「働きにくい・生きにくい」現状を見てきました。

ある取材でベビーホテルが不衛生だと知り、国会へ陳情やキャンペーンなどを行い、児童福祉法改正にこぎつけました。それがきっかけで今度は国会議員になりました。

議員時代に橋本龍太郎さんが総理大臣で土井たか子さんが社民党、私がさきがけ党首で連立を組んでいた時、男女共同参画の法律を通しました。女性2人が意思決定の場にいたからこそできた今、つくづく感じています。

今の社会では、仕事でも男女の差別がまだまだありますね。やはり「自分は何に関心があるのか、どう生きるのか」を問い続けることが未来の職業につながるのでは。私は仕事ではずっと受身だったように思いますが、「好奇心とチャレンジ」はありました。「わたしの働き方・生き方」の答えは皆さん一人ひとりの中にあるのではないのでしょうか。

そして今、子どもたちが「いじめにあうまい」「目立つまい」と用心深い。人と似てなくていい。自分をもっと大事に、自分らしさを十分に発揮できるかどうかが大事だと思います。

【湯浅】 95年に渋谷でホームレス支援を始め、2001年から野宿の人に限らず相談を受けるようになると、DVの被害女性や若い人、高齢者、家族持ちなど、どんどん来るようになりました。結局、社会の形のあり方の問題なのです。

日本では、「国の傘」「企業の傘」「正社員の傘」の3つの傘でまわってきました。国は企業を守り、企業は下請け・孫請け・正社員を守り、男性の正社員が妻子を養う。そう思われていた。しかし、非正規で働く傘の外の人達は、元からずっと無権利労働だったんです。将来の見通しも立たない。災害があれば雇用が維持できず雇用保険も受けられない。「自分の努力が足りないからだ」と思ってしまい自己評価も低い。

地方から来た若い人などは「居場所が無かった」と言います。安定した職に就けないと家族親戚からも非難される。つまり「社縁」から弾かれ、「地縁」「血縁」的にも非常に立場が悪くなる。傘の中と外がはっきり分かれ、しかも傘がしばんでいく社会は、外の人たちが大変になると同時に中の人たちも非常に生きづらい。3つの傘のありようを変えていかないと、と強く思います。

かなり縮こまった社会の中で、仕切り直すことが大事だと思うんです。「男だから女だからこう生きていくもんだ」という「カテゴリー別ライフ

コース」を「状態別のライフコース」に変えていけないものかと。男、女、年齢、障がいに関わらず、その人の状態にあわせて居場所や出番・役割がある。グラデーションが豊かにある社会っていうのは「社縁」が切れちゃっても、その場その場での縁がある。これからの社会は傘をなくしていく、溶かしていくっていう感じだと思います。

【石阪】 学生に将来の希望を聞くと「低空飛行の状態で定年までずっと走っているのが一番いい」と言います。管理職になってバリバリ働きたいっていう人が少ない。「働くことは楽しいよ」と下の世代に伝えられなければ、指導的立場の女性割合を30%にしようとする国の目標も遠く及ばないのでは。

三重県では「女性の審議会登用率」が高い上位2つの自治体は南部の小さな町です。こうした過疎化の進む農山漁村では、男女問わず、活用できる人材をフルに活用しようとしています。人口減少が進むこれからの時代、これらの町のように「総力戦」で挑まないで物事は解決しないのでは。男女の役割や立場をこえた議論の場を意識的につくっていくかなければ、なかなか地域は変わらないと思います。

【堂本】 今回の震災で顕著になりましたが、日本の社会構造や伝統的な考え方を根本から変えないと。男も女も高齢者も障がい者も差別されない、お互いのことを考える人間関係をつくることで、いろんなことが予防される地域社会になっていくと思います。そんな地域の中で、自分自身を位置付ける時に、自分らしい生き方ができる。女性たちもチャレンジすること。自己犠牲ではなく、思う存分チャレンジしていく方がいろいろな道が拓けると思います。

【湯浅】 これからは傘の外にセーフティネットを自分たちで作っていきましょう。災害で言えば、普段から地域の多様なニーズをキャッチできるかどうかで、避難所運営の仕方も変わってくる、ということです。住民の気付きなどが普段から培われて、いろんな人達の多様なあり方を受け止め、あらゆる人に社会参加の場所がある、そういう地域・社会を、公的・私的なものを取り混ぜて作っていくことが私達のやるべき事だろうと思います。

【石阪】 今の日本は、当たり前だと思ってきた生き方にかなり綻びができていて、危ないところまで来ている。「常識にとらわれない生き方」、「多様性を認める」ことが大切では。そして、一人ひとりが「何かをしてもらうだけの生き方」ではなく、自分に何ができるのかを考え、できる範囲で積極的に社会にかかわっていくことが必要だと思います。

1 災害と男女共同参画 ～まず、避難所から考える～

大震災後の今だから考え得る「災害時の男女共同参画」について、特に様々な問題に直面する避難生活に注目し、意識や準備について考えることを目的に実施しました。



(講師:堂本暁子さん)

講師に堂本暁子さんを迎え、現地の様子や国への働きかけとその成果についてお話を伺いました。

堂本さんからは、「(方針や行動計画が)しっかり実施されるかされないかは、これからの皆さんの問題。大震災が起きたとき、三重はこれだけの用意をしてきたからずっと被害が少なかったと言える体制を」「平時から女性の意見がしっかりと反映される仕組みづくりを」とのメッセージがありました。



その後、避難生活に「男女共同参画の視点で必要なもの」などを考えるワークを実施。

参加者からは、「具体的な話も多く有意義だった」「平時からの取組の重要性がわかった」など、多くの意見が寄せられました。

6つの ワークショップ を開催!



2 労働からみる「女性の貧困」

貧困に直面している女性が、どのような状況にいて、どのような支援が必要なのかを考えました。



はじめに講師の大沢真知子さん(日本女子大学)から、貧困を生み出す社会構造や女性の労働の現状を解説いただきました。『働いても貧しい』ということが日本の労働問題の課題で、特に女性の貧困の特徴。『みんなが働いたら食べられる社会』になることが大切』という講師の話にみなさん大きくうなずいていました。

続いて、共催のNPO法人四日市男女共同参画研究所から四日市市在住のシングルマザーの実態調査の報告がありました。「子どものために働きたいが、預けられる人がいないので働きに出られない」「私が倒れたら...と思うと不安」など講師の話を裏付けるような切実な声の紹介に参加者からは、「実際の声に胸が詰まった」「周りが気付いて支えあうことの重要性を再確認した」などの感想がありました。

3 学生に贈る

「10年先に笑っている
大人になるために」

これから社会に出ていく学生に働き方、生き方を考えてもらおうと、学生対象のワークショップを開催しました。

まず、10年先の自分を想像してもらうために、社会に出て活躍している10年ほど先輩の“笑っている大人”4人の体験談を聞きました。先輩たちが今までどのように働いていたのか、結婚や出産など人生の節目でどのような壁にぶち当たり、乗り越えてきたのか、話を聞きました。

学生たちにとって先輩の話は刺激的だったようで、結婚したら仕事を辞めるつもりだったという女子学生も「考え方が変わった」と話していました。

就職状況が厳しい中でライフプラン・キャリアプランを描いていくことは難しいですが、これから社会に出ていく学生が何をしたいのか、どんな「人生」を歩んでいきたいのかを考える“きっかけ”になったようでした。



4 仕事も家庭もどちらも大切 ～ワーク・ライフ・バランスの観点から～

働きやすい職場環境を実現するためにはどうすればよいのかについて、県内企業3社から3名と大学生2名のパネリストを迎え、座談会を開催しました。

5 女性農業者の社会参画に向けて

農業委員や農協理事、地域役員等を務めた女性農業者の事例発表を聞いた後、会議に参画して発言する、役職を引き受ける等、「自分たちに出来ること」から積極的に取り組んでいこうと話しました。

6 あらゆる意思決定の場へ女性を ～参画のノウハウ～

2020年までにあらゆる分野で指導的立場に女性が占める割合が、少なくとも30%になるように地域でどのような取組をしていけばいいのか話し合いました。



詳しいレポートは
フレンテみえHPで!
(随時掲載予定)





「女性がいきいきと働いている企業」

三重県知事表彰式

ホールイベントのオープニングでは、「映像で振り返る“魅力的なオトナを増やすプロジェクト”」の上映、知事挨拶に続き、平成23年度の「女性がいきいきと働いている企業」の表彰式が行われました。

今年度の受賞は、《グッドプラクティス賞》株式会社丸八土建、《選考委員会奨励賞》株式会社三重銀行・株式会社明和プラテックの3社の皆さん。

選考委員会の金谷千恵子さん(特定非営利活動法人「女性と仕事研究所」代表・関西大学講師)より表彰制度や受賞の経緯などをお話いただいた後、鈴木英敬三重県知事より受賞企業にそれぞれ表彰状と記念品が贈られました。

受賞各企業の代表からは、育児休業から復帰した女性社員による異分野事業立ち上げ(丸八土建)や女性の測量士登用(明和プラテック)など、女性社員の能力活用の取組や、ノー残業デー・わくわく子育てプラン(三重銀行)など、ワーク・ライフ・バランスの視点での職場環境整備など、個性的な取組の紹介がありました。

今年度表彰の詳細は・・・ <http://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/2011100421.htm>



チャレンジマーケット



限定“チャレンジマーケット”を開催！農業分野で活躍する女性から加工品の販売、女性の起業家による人気のお菓子の販売がありました。

三重県では、男性も女性も各々が持てる力を十分に発揮できる働きがいのある職場環境づくりを目的に「男女共同参画」や「仕事と生活の調和」「次世代育成支援」などに積極的に取り組む企業(法人)を「女性がいきいきと働いている企業」として表彰しています。

パネル展・ポスターセッション

三重の女性史研究会による『今ここで生きる私 ―三重の女性と「移動」―』を展示しました。「移動」により、歴史を切り拓き、また翻弄されてきた三重の女性達を紹介しました。

また、三重大学女性研究者支援室と、それを継承発展した三重大学男女共同参画推進室の活動紹介の「理系女性研究者の活躍促進」ポスターセッションが行われました。

その他、フレンテみえ登録企業の取組紹介、県内市町の取組や議員数の展示、フレンテみえが今年度に発行予定の『統計でみる三重の男女共同参画』などを展示しました。



「働くこと」等についての相談ブース

みえチャレンジプラザ、三重労働局雇用均等室、三重行政相談委員協議会のそれぞれの相談員が個別相談に対応しました。「働くこと」等に関するお役立ち情報も展示しました。

ランチタイムセッション



フォーラムのお昼休憩の時間に、ランチタイムセッションを行いました。盛りだくさんのフォーラムですが、全てのワークショップが同じ時間で開催されたため、残念ながら複数のワークショップには参加出来ません。

そこで、各ワークの参加者からそれぞれのワーク内容について報告を行い、参加できなかったワークの様子を知る場としてこのセッションを実施しました。こちらも多くの皆さんにご参加いただきました！

パパ&じいじカフェ



今年もパパ&じいじカフェがやってきました！

男性講座修了生が事前に準備した手づくりクッキーとコーヒーを振舞いました。エプロンをつけたパパとじいじが手際よくコーヒーを配りました。

日頃からやっていると手際が違います。参加者との話も弾んでいました。イクメンやソフリエなど男性が育児・家事に関わる場面が増えてきました。今日のパパ&じいじたちの姿を見て意識が変わっていく事を願っています。

交流会

フォーラム終了後、8月に実施した『地域リーダー養成講座』受講生の交流会を行いました。講座終了後に動き出し、今年度中に企画案を実施するグループの事例紹介や、現在実施に向けて動いているグループの報告などがありました。参加者は他のグループの活動や実施に向けての動きを聞き、気持ちを新たにしていました。



11/19 土

平成23年度 女性に対する
暴力防止セミナー

ストップDV!

**“がまんしなくていい!
あなたは悪くない”
～当事者が望む支援とは～**

地域開催 松阪市産業振興センター



DVについて理解を深めていただくことを目的に、松阪市と共催しました。雨天にもかかわらず100名近い参加があり、皆さん熱心に聞き入っていました。

セミナーでは、まず三重県こども家庭室から、三重県DV防止及び被害者保護・支援基本計画改訂版などについての報告があり、次に松阪市の市民グループ、情報ネットワーク「あ・うん」による朗読劇「ひまわり～DVをのりこえて」が上演されました。「あ・うん」のメンバーによる力強い語りに、会場の皆さんは引き込まれていました。講師の藤木美奈子さん(NPO法人WANA関西代表、龍谷大学准教授)からは、ご自身の児童虐待やDVの被害体験をもとに、虐待やDVを受けると自尊心が下がってしまう、暴力の連鎖を起こさせないために、また、被害者の心的回復のためにも、自尊心を取り戻すような支援が重要であると話されました。

参加者アンケートでは「DVの実態を知ることができた」「講師の『人生は変えられる。幸せになれるので行動して下さい。それを周りが支える』の言葉が心に残りました」との声がありました。

11/20 日

～わたらしく生きていこう!
“しごと”をスタートする前に～

**母子家庭等の女性のための
就職準備セミナー**



就職に向けて、参加者のエンパワーメントや仲間づくりを目的に開催しました。自信を持って就職活動に臨むための講義やメイクアップセミナー、履歴書用写真撮影を行いました。また、子育てをしながらの就職活動について専門の相談員が対応する相談ブースも設けました。子どもプログラムでは生活自立を楽しく学ぶことを目的に、おもちゃづくりと簡単クッキングを行いました。

子どもたちの手づくりのケーキでパーティーを楽しんだ後は、県内企業、団体から参加者へスーツやパンプス、子ども用品、生活用品、お菓子、ジュースなどたくさんのプレゼントも!

参加者からは、「がんばろうとしている仲間を感じる事ができた」「仕事が決まっても最初の準備にお金がかかるので助かった」「応援してくれたたくさんの企業や団体さんにパワーを貰った。がんばります」などの声をいただきました。

共催/ハローワーク津マザーズコーナー
NPO法人全国女性会館協議会(日本マイクロソフト株式会社助成事業)

12/4 日

**つくろうパパ友
シングルパパ
応援カフェ!**



この講座は、父子家庭の皆さんに向けてフレンテみえが初めて企画・実施した講座です。

講師にNPO法人全国父子家庭支援連絡会の片山知行さんを迎え、親子一緒に昼食調理と食事の後、パパと子どもそれぞれでワークを行いました。

パパワークでは、講師を囲んでの座談会を実施。父子家庭の現状、課題とその支援についての紹介がありました。講師からは「パパと子どもの笑顔をまもりたい。それには子どもが成長した時にどんな社会を残せるかが課題」とのお話も。子どもワークでは、食器や洗濯物の片付け大会のあとパパへの手作り感謝状を作成し、サプライズでプレゼント。パパたちは驚きながらも嬉しそうな笑顔で受け取っていました。

参加者からは「パパ友ができた」「また実施してほしい」などの声。パパ同士はもちろん親子そろっての交流のきっかけにいただけたようでした。

ひとり親家庭の家計を支援するための「児童扶養手当」。これまでは母子家庭を対象に支給されていましたが、平成22年8月1日から、父子家庭にも支給されることになりました。児童扶養手当の支給を受け取るためには、お住まいの市区町村で支給申請の手続きをすることが必要です。

夢みるゆめ子ちゃんと壁ぶちあたり子ちゃんの行方

2011年6月4日 上野千鶴子さん講演会「夢みるゆめ子ちゃんと壁ぶちあたり子ちゃん」を開催。「自分で生き方を選択し、社会とつながっていくことが重要」とのお話をいただきました。2011年9月17日～は、エンパワーメント・スクール2011「夢みるゆめ子ちゃんと壁ぶちあたり子ちゃんへ ～幸せな人生のつくり方～」を開講。自立したキャリア・ライフプランを描くことについて考えました。

“夢みるゆめ子ちゃんと壁ぶちあたり子ちゃん”（以下「ゆめぶち」と略）は、どう変わっていったのでしょうか。

理想と現実の間で・・・

戦後過半数を占めていた「サラリーマンの夫と専業主婦の妻」の世帯が「共働き」の世帯より少なくなり、現在20～30代の「ゆめぶち」は、親世代のような生き方ができなくなると言われています。以前よりは、女性の働く環境が整えられつつありますが、“働き続ける”ためにはまだ「壁」がたくさんあるようです。働き方や生き方に悩んでいる「ゆめぶち」がこれからのライフプランを描ききっかけになれば今回のエンパワーメント・スクールを開講しました。講師の大槻奈巳さん（聖心女子大学）からは「女性は未だ新卒で就職するときに男性に比べて不利。割り当てられる仕事は周辺の仕事が多い傾向。昇進は男性より遅い。結婚や出産で仕事を辞める意識が高く、再就職や転職を視野に入れなくてはならない。そして再び仕事に戻ろうとするときにはよい働き口がないことが多い現状にある」と、働く女性の置かれる状況をお話いただきました。働き方の現状や自分の心を整理しながら県内で活躍する先輩の話聞き、参加者同士で自分のこれまでとこれからを語り合っ、これからの人生のプランを描きました。

自分のしあわせは自分で決める

参加者のなかには、「今まで周りを気にして、違う自分で生きていた」という方もいました。自分の“現在地”を知り、チャレンジし続けている先輩の話を見聞き、親の期待や周りに縛られることなく、自分が選んだことをやろうと思った。失敗しても誰かが助けてくれるし、また立ち上がればよいと思うことができた」という声も出てきました。

壁にぶちあたって、なかなか次の一歩が踏み出せないとき、一人で悩んでいるとき見えなかったものが、ひとの話を聞いたり、同じ悩みを抱えた仲間と話し合ったりすると見えてくることもあります。それぞれ考え方は違いますし、「壁」も違う。思い描くしあわせの形も違いますが、自分を整理し、仲間と繋がっていくことで「壁」にぶちあたっても生きていく「力」になるのではないのでしょうか。

これからの「ゆめぶち」に幸あれ！

共催：（公財）日本女性学習財団

“女子会” 開きました！

エンパワーメント・スクール卒業生で同窓会として「女子会」と、イケムラレイコさんの展覧会に行ってきました！1ヵ月ぶりに再会した仲間と、講座終了後から今日まで「チャレンジしたこと」などを語り合いました。現在、次回「女子会」プランを、みんなで計画中！



「夢みるゆめ子ちゃん」と「壁ぶちあたり子ちゃん」とは？

夢みるゆめ子ちゃん

「女性のゴール」としての結婚・出産を夢みるシングル。自身のライフプランを描けず、先のことを考える必要性もあまり感じていない。父親と同等の稼ぎの“それなりの王子様”といつか出会えるはず・・・と夢みている。非正規等の雇用形態のため、仕事生活への不安や不満感が強く、結婚生活に期待している。

壁ぶちあたり子ちゃん type1

結婚・出産を機に仕事を辞めた、いわゆるM字曲線（図1）の谷間に当たる女性。ライフプランをしっかりと描いてこなかったため、現実の壁にぶち当たっている。経済的に自立したくても、家事育児介護等に追われパートタイムしか職がない。これまでは「なんとか」だったが、今後のことを考えると不安・・・。

壁ぶちあたり子ちゃん type2

キャリアを重ねてきたが慣習やしがらみ、現代社会の中でもがいている女性。女性の社会進出を阻む、見えない“壁”にぶちあたっている。正規を目指して働いているがいまだ非正規雇用・・・将来の保証もなく不安。「いつか白馬の王子様が・・・」幻想が捨てきれない。現実逃避って言わないで！親世代の処方箋が効かない。自分たちでモデルをつくりだすしかないが・・・。

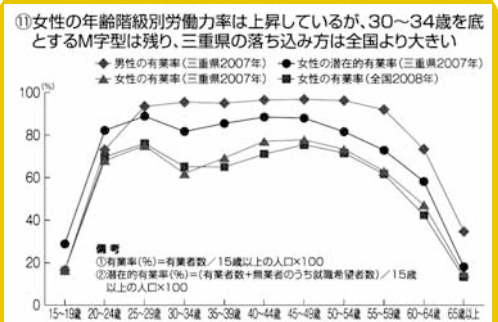


図1 女性の有業率



スペシャル インタビュー

津市出身のイケムラレイコさんの回顧展が
三重県立美術館(2011年11月8日(火)－
2012年1月22日(日))で開催されています。
今回は特別に、フレンテみえのインタビューに
お答えいただきました。



イケムラレイコ うつりゆくもの

Leiko Ikemura: Transfiguration

― 津にお住まいだった高校生の頃から「自立して生活していくことを意識していた」とお聞きました

あの当時はかなり封建的でしたよね。いわゆる伝統やしきたりがまだまだ力を持っていた。90%くらいの人たちは「女性は家庭で、男性は外で働くものだ」と考えていたのだと思います。自分の母の時代、戦後の女性の現状を見ていてすごく辛いなと感じていました。社会の中で女性は仕事や生き方を選ぶ権利がなかなかなかった。非常に大変で、不自然で、不公平だと思いました。私はたとえ大変でもそうじゃない生き方を選ぼうと決心しました。慣習が強かったからこそ、外に出ようと思いました。当時は今よりもっと固定的な意識や慣習が根強かったですからね。

― 「そうじゃない生き方」を選ぼうとしたきっかけは？

いろいろありますが、文学が好きでよく小説を読んでいた。小説にはさまざまな生き方をしている男性や女性が書かれていました。間接的にでも、いろいろな生き方があることを小説から学びました。

― イケムラさんにとって「自立」とはなんですか？

私にとって自立とは、自分の道を自分の責任で、自分で拓いていくこと。コネを使ったりとか権力に擦り寄ったり、依存したり・・・そうではなく、自らの生き方を築いていくのは、もっと勇気が必要なことだと思います。もちろんいろんな人に支えられて自分はいます。全部自分ひとりでやったのではない。でも気持ちとして、そういう芯がないと続けられません。

― 作品のなかでも印象的な少女のモチーフ…イケムラさんにとって「少女」とはなんですか？

子どもの頃から、私たちは社会性や男女のあるべき姿を教え込まれます。でも、それらを取り払った人

間ってなんでしょう。私は誰しも心の中に原初の子ども、少女性をもっていると思います。大人として、社会的な振舞いも必要ですが、内面は違う。素直にそういうものを持っている人に魅力を感じます。それを描いてみようと思ったのが、少女性を追及するひとつの要因です。

あと、女性は美術のなかで男性に描かれることが多い。男性の理想化、もしくは魔女化されてきました。女性自身の観点から女性像、少女像を描くきっかけを作る努力をしているつもりです。男性の模倣をするのではなく、やり方はわからないけど、もっと内面からとらえる、自らを通してのアプローチがあると思っています。

― ベルリン芸術大学で初めての女性の教授としても活躍されているとお聞きました

ええ、日本人の女性教授はドイツの美術大学では今日でも例がないでしょう。苦労はたくさんありました。でも、自分の仕事で認められたいと思っていたので、権力のある人につながらなかった。だから、時間はかかったけどこれは私の本当の実力で今の仕事に携わっています。でももちろん、まだ途上です。自分の道はこれからだ、と思っています。

― 最後に三重の後輩にメッセージをお願いします

自分の可能性を信じて、夢みる人でいてほしい。そしてそれを実行して続けてください。「自立」は「孤立」とは違う。同じ世代のヨコのつながりだけでなく、ナナメのつながりも大事にして欲しいと思います。私も、教授を務めているベルリンの大学でつながれる場として、いろんな世代の様々な国の学生たちが交流できるクラスをつくっています。そういう場を持つこともとても重要です。



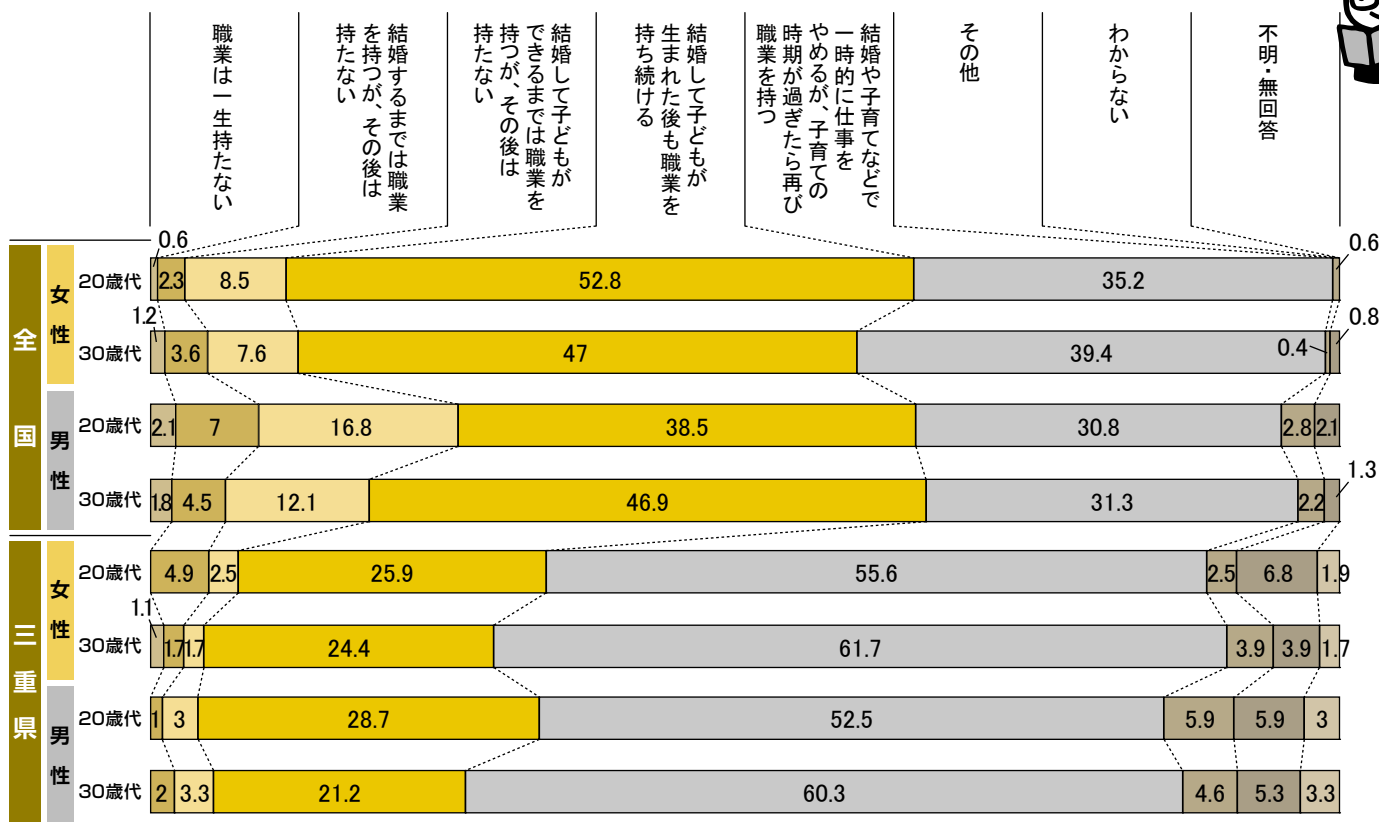
イケムラレイコさん

津市出身。1970-72年大阪外国語大学でスペイン語を学んだ後、72年スペインに渡り、セビリア美術大学(元The Royal Academy of Fine Arts of Saint Isabel of Hungary of Sevilla)で学ぶ。1979年スイス、チューリッヒに。1983年ドイツ、ニュルンベルクに移り、その後ケルンへ。現在はベルリンとケルンの二箇所を拠点に活動中。また、国立ベルリン芸術大学(UdK)で教授も務めている。

イケムラレイコ展 うつりゆくもの 三重県立美術館 2011年11月8日(火)－2012年1月22日(日)

フレンテみえの正面にはフランス人の作家ニキ・ド・サンファルの代表シリーズ女神「ナナ像」のひとつがあります。既存の女性像から解放された新たな女性像を作り出し常に前進し続けた彼女の作品は、今も多くの人々を魅了し続けています。美術と男女共同参画も、歴史的・社会的・文化的背景から深い関わりがあります。

みえの20～30歳代は「女性の働き方」についてどう考えているの？

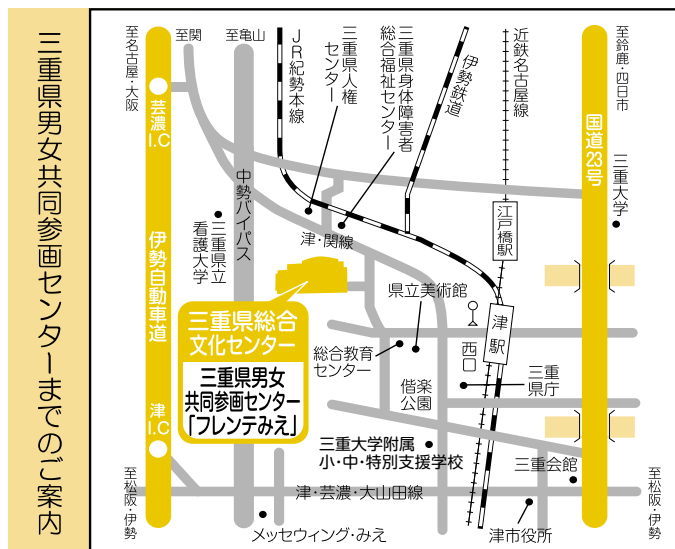


三重県「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査」(H21年)、内閣府「男女共同参画に関する世論調査」(H21年)より作成 単位: %

三重県は、子どもができたらずを辞めて、子育てが落ち着いたら再就職するのがいいって考え方の割合が全国より多いね。

三重県は「わからない」って答えている割合も全国より多いよ。

あなたは、どう考えますか？



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自転車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※新県立博物館建設工事のため駐車場が一部使用できません。駐車場の混雑が予想されます。なるべく公共交通機関でお越しください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター

三重県男女共同参画センター フレンテみえ

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地

TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135

URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>E-mail: frente@center-mie.or.jp

夢みるゆめ子ちゃんと壁ぶちあたり子ちゃん

ゆめ子とぶち子 4 (最終回)

